

救急外来での腹痛対応

柏崎総合医療センター

消化器内科

後藤 収

2024年1月11日 ショートレクチャー

救急外来でよく遭遇する腹痛

- ・ 急性胆嚢炎、胆管炎、膵炎などの消化器疾患
- ・ 婦人科系疾患
- ・ 心筋梗塞などの心血管系イベント
- ・ 不定愁訴に近いような非特異的な腹痛

などなど

日頃救急外来で対応していると多種多様な腹痛に遭遇するかと思います。

疼痛部位による腹痛の鑑別

心窩部：消化管潰瘍、肝胆道系疾患、心血管系イベント

右季肋部：急性胆嚢炎、胆管炎、虫垂炎、尿管結石など多岐

左腹部：虚血性腸炎などの腸炎、尿管結石など

下腹部：排尿障害による膀胱腫大、便秘など

あげればきりがありませんが救急外来で遭遇する頻度で考えると

上記のような鑑別疾患が上がることが多いでしょうか

救急外来で来る腹痛で最も悩むこと

それはやはり **どこまで検査をするか** ではないでしょうか？

→今回のショートレクチャーでは主に研修医を対象として、救急外来で遭遇する腹痛の方の検査、診断までの簡単なレクチャーを行わせていただきます。

腹部所見と随伴症状

- ・ 腹部は平坦か膨満か。それは肥満などによる自腹様かどうか
- ・ 腹部の硬さ
- ・ 痛みの性状と部位はどこか
- ・ 嘔気、嘔吐はともなっているか
- ・ 便の性状
- ・ どのくらいの期間腹痛が続いているか

こんな腹痛には要注意

①腹痛+発熱

感染症をともなうような疾患による腹痛である可能性があります。

一部腸炎のように軽症である可能性もありますが、腸管穿孔、胆嚢炎、胆管炎などのように可及的に治療を開始しないと敗血症まで至る疾患の可能性もあります。

②腹痛+嘔吐

特に注意が必要な場合は、痛みが強すぎて嘔吐している場合です。

患者本人に確認し痛みが出現してから嘔吐していた場合には、つよい疼痛を引き起こすような急性腹症が隠れている可能性があります。

腹痛患者の検査①

1. 身体診察
2. 画像評価
3. 血液検査

腹痛患者の検査②

①画像評価が必要な患者さんは？

→少し極端な言い方になりますが、腹部に関しては画像評価は必須に思います。腹部の身体所見やバイタルと実際の腹痛の原因が乖離していることもあり実際に画像を確認しないと評価できないことが多々あります。

②画像評価のモダリティーはなにを選択するか？

→救急外来でよく選択される検査として腹部単純レントゲンとCTがあると思われます。実際にはどちらがより適切でしょうか

腹部レントゲン①

一番多く選択されるモダリティーとして腹部レントゲンが挙げられると思います。

よく挙げられるレントゲンのメリットとしては

- ・撮影までの時間が短い
- ・被ばく量が少ない

がありますが、一方で・・・

腹部レントゲン②

腹部レントゲン画像は

- ・ 腸管内にガスが溜まっているかどうか
- ・ 同じく腸管内に便や異物があるかどうか

この2点しか実質評価することができません。またガスが溜まっていることが評価できたとしても閉塞起点の有無や炎症の有無に関してはレントゲンでは評価できません。

腹部レントゲン③

つまり

腹部レントゲンで所見がない

= 腹痛の原因となるような所見がない **とは言えません！！**

**ですので可能であれば腹痛患者で原因がはっきりしない場合には
少なくとも単純C Tまでは撮像したほうが無難です。**

**また緊急手術、治療などの適応の可能性が否定できない場合には
迅速C r eで造影C Tまで撮像することもお勧めします。**

Take Home Message

- 救急外来では腹痛患者には単純CTまではとっておいたほうが無難。その後の緊急治療の可能性がある方には早めに造影CTの決断を。
- 腹痛+発熱、腹痛+嘔吐など注意が必要な随伴症状をともなっている場合には採血も検討。
- 採血で炎症の値が高く、疼痛もつよい場合には造影CTまで検討。